

「寸暇」を大切にしましょう！

今回、小山田さんの話を書いています。彼のチャレンジ精神は素晴らしいものです。私などは、彼の足元にも及ばないです。私が大切にしているのは「寸暇」です。ちょっとした時間で出来る事を片付けるようにしています。
栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「無いものを嘆くよりも、あるものに感謝したい」

右掲は、NHKのホームページより小山田雅人という障害者プロゴルファーです。写真でも分かるように、右手は義手なのです。従って、左手一本でスイングするという方なので、私は、8月29日のNHK「アスリートの魂」という番組の再放送で知ったのです。早速、ネットで調べると「プロゴルファーの小山田雅人さんを紹介。幼少期の事故で切断した右手は義手。中学生のときにゴルフを始め、障害者の世界大会では2連覇を達成。しかし、プロになったのは昨年。前職は栃木県庁だった。9年前、脳腫瘍が見つかったことをきっかけに、人生の希望を失かけたというが、4年前に授かった娘の真姫ちゃんが心の支えになったという。小山田雅人さんは、東京パラリンピックでのゴルフの種目協議入りを願っていた。」と紹介されています。



小山田さんは、現在、45才ですが、その人生はチャレンジ精神そのものです。幼い頃は、野球をやり、小学校5年でサッカーも始めて県北代表になり、中学高校は野球部でレギュラーという背景があり、県職員として25年間務めた上で、昨年、プロゴルファーになられたという方です。前述の紹介文にあるように、9年前に脳腫瘍になられて大手術を受け、左側頭葉の7割を摘出されたのですが、タイトルにあるように「無いものを嘆くよりも、あるものに感謝したい」という強い精神でいろんな困難を克服されて、しかも、一流になっておられる素晴らしい方なのです。

すでに、ティーチング・プロとして活躍されており、障害を克服したという事で講演活動もなさっているのですが、目下のチャレンジはトーナメント・プロとして活躍する事との事です。アマチュアとしては、ハンディ0と言う腕前で、大会でも大活躍されていたのですが、プロ登録して、トーナメントに出場すると彼の打つスピン量で

出来ない理由を探すより、半歩前進でも出来る事から始める！

は、固くて早いグリーンでは止まらないのだそうです。トーナメントに出場しているプロは、ボールを打つ瞬間、右手で球をこするように押しついているのだそうですが、彼には、右手が義手なので思うようには動かさないのです。それでも、ならばカット打ちとスライス回転の止まる球にチャレンジされているのです。

この不屈の精神は、私のような軟弱な精神の持ち主には神々しく映りますが、皆様は、如何でしょうか。「あれがない」「これがダメ」と出来ない理由を探していないでしょうか。しかも、頭からというのでは、困ったことになります。時代は、どんどん変化しているので、お客様の要求レベルも日に日にアップする訳です。その要求に「できません」というのでは新しい道が切り拓かれる訳がありません。「やってみましょう」と苦勞を買ってでもチャレンジするから、その姿にお客様も感動して、その苦勞を評価してくれるのです。

私は、66才になりましたが、このお話を聞いて感動しました。「もう、年やから・・・」とささやく自分がいるのですが、そういう甘いささやきに乗らないように心掛けたいと思います。私は、凶々しくも「百歳現役」と掲げていますが、まずは健康に心掛けて迷惑をかけないようにしたいと思います。そして、今まで、避けてきた「人と会う」という事に積極的になり、頼まれれば「いや」というのではなく、「やってみましょう」と前向きに受け止めて、お客様に応じたものを提供して行きたいと思います。その為にも、新しいことに興味津々という心の若さに気をつけたいと思っています。

「健康」と「人と会う」そして「心の若さ」の3つを毎日心掛けて行きたいと思います。セルフチェックのシステムをつくり、特に、外からは分かりにくい「心の若さ」に心掛けたいと思います。ご支援のほどお願いします。

ワンポイント・アドバイス

お客様の悩みで厄介なものの代表格は「指示待ち族」と「簡単に出来ません」と言う社員の存在なのです。「他人の心は変えられない」訳ですから気づかせる必要があるのです。この「気づき」できる上位の2割の社員から始める訳です。「2:6:2の法則」というように、どうしてもダメな2割がいるのを承知して6割を巻き込むパワーを上位2割の方と作りましょう。

